

令和7年度 学校評価表

香芝市立志都美小学校

教育目標	心身共にたくましく、知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成			総合評価
運営方針	合言葉である「(志)しっかり (都)ずっと (美)みんな」を具現化に努め、元気な挨拶と明るい笑顔のあふれた学校づくりを目指す。			B
本年度の重点目標	教職員相互の信頼と協力に基づいて絶えず研修を積み重ね、活気に満ちた学級・学校づくりに努める。			
	学校・家庭・地域との連携協力を密にしながら、保護者・地域住民の信頼に応える教育活動を展開する。			
	児童の実態をふまえ、基礎的・基本的な内容の確実な定着と確かな学力の育成を図る。			
	道徳的心情と正しい判断力を育み、よりよき規範意識を樹立、情操の陶冶、自主的行動の啓培に努める。			
	「人権」「生命の尊厳」を柱に、差別に対する正しい見方、考え方を培い、差別に立ち向かう意欲と実践力を養う教育を推進する。			
	児童の自主性を伸ばすとともに、実践力を高めるための体験活動を重視した教育活動を推進する。			
	特別支援教育の在り方を正しく認識し、一人一人の児童の実態を把握し、児童の可能性を最大限に伸ばす取組を個別指導計画の中に正しく位置づけ、指導体制を確立する。			
自他の生命の安全に留意し、健康でたくましい心身を育てる保健・安全・体育的指導に努める。				
学校経営	評価の観点		評価	次年度への課題と改善策等
教育目標・指導の重点	(1) 学校教育目標や指導の重点に基づいて、前年度の課題を踏まえ、自身の教育活動を展開している。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・課題と重点目標を確認し、取組を進めてきた。 ・職員会議や研修及び終礼等で共通理解を図っている。 ・校長室だよりを通して学習活動様を走んでいる。地域からも良い評価を得ている。
	(2) 学校教育目標が教職員に共有され、教育活動を進める上で生かされている。	A		
	(3) 学校教育目標が、保護者や地域住民等に発信され、理解されている。	A		
地域連携	(4) 学校と地域社会との連携がよくできており、地域の人材・施設・環境等を十分活用した学習ができています。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティとの連携を密接に取りながら、保護者や地域の方に学習面・生活面での支援をたくさんしていただいた。
危機管理	(5) 公文書や個人情報の管理・保護を適切に行っている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・公文書や個人情報の保管場所を設け、担当者を中心に全職員が保管及び管理を適切に行っている。 ・年度当初に全職員で確認し、緊急時対応マニュアルは目につきやすいところに置き、普段から危機管理を意識している。実践力をつけるためにロールプレイを取り入れた研修も行っている。
	(6) 危機管理に対し、教職員全員が共通理解している。	A		
学習指導	(7) 各教科の指導内容について、基礎・基本を明確にし、教科の精選・工夫を計画的に行っている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・授業ごとに学習のめあてを児童に明確に示し、めあてに沿った指導を行っている。 ・校内授業研究を通して、児童が主体的・対話的に学べる指導や学習形態を全職員で研修した。図工や理科の学習で学習キットに頼る場面がみられたことが来年度の課題である。 ・地域の方の協力のもと、昔遊びや米作りなど体験的な学習活動を多く取り入れることができた。来年度も続けていきたい。 ・学習活動でクロムブックを効果的に活用し、学習意欲につなげている。
	(8) 教材研究を通して指導法や学習形態の工夫をし、児童が集中して取り組む授業を行っている。	B		
	(9) 体験活動を多く取り入れるなど、児童がより主体的に学ぶ授業づくりに取り組んでいる。	A		
	(10) パソコンやタブレット、視聴覚機器などを利用して、効果的に学習を進めている。	A		
学習意欲	(11) 全職員で児童の学習の実態を分析し、児童の学習課題を明確にして取り組んでいる。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員が全国学力・学習状況調査の問題を解いたうえで結果分析を綿密に行っている。県の学力テストの結果とあわせて課題を具体的にみつけ、来年度の対策を職員全体で共通理解した。 ・家庭学習は個に応じた内容や量を出しているが、定着しない児童がいる。家庭との連携がさらに必要と考える。
	(12) 各教科等において学習意欲向上のための具体的な取組を行っている。	A		
	(13) 家庭での学習習慣の定着に向けた具体的な取組ができています。	B		

生徒指導	(14) 児童の実態について共通理解し、教職員が連携して、組織的・継続的に指導する体制が整っている。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の実態は会議や終礼で共有している。来年度も継続していきたい。不安を抱える児童には担任以外の職員も積極的に関わり、保護者に対しては、生徒指導担当や管理職とともに学校全体で対応していく。 ・しずみっ子マナー7カ条を学校全体で守れるよう、ボランティア委員会が毎週月曜日に放送で周知しているが、十分守れているとは言えない。朝の会で確認し、帰りの会で振り返ることを継続して行うことで、児童の意識を高めていく。 ・避難訓練は、学期ごとに地震・火災の訓練を行った。いざという時に備え事前事後指導を含めこれからも続けていく。また、児童の緊急避難に対する緊張感を更に高めていくため、来年度は予告なしで避難訓練を実施する計画を立てている。 ・たて割り掃除では、高学年が低学年の手本となり協力して熱心に掃除をする習慣がついている。来年度は、しずみっ子マナー7カ条にある、「だまって15分そうじする」を重点目標において清掃活動を行っていく。
	(15) 生活指導を通して児童が、しずみっ子マナー7カ条を守り、学校のルールを守っている。	B		
	(16) いじめに関して実態を把握し、教職員が共通理解の下、いじめの防止・指導に取り組んでいる。	B		
	(17) 避難訓練や安全意識高揚のための取組を進めている。	A		
	(18) 児童が掃除の仕方を身につけ、進んで掃除をしている。	A		
道徳	(19) 道徳科の年間指導計画に基づいて実践を進め、年間の授業時数が確保できている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は研究授業を行い、職員全体で授業の進め方や発問について研修を深めた。
特別活動	(20) 特別活動を通して、児童が自主的・主体的に活動する態度を育てる指導ができている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・集会やハッピーワールドは児童会中心の話し合い活動でめあてや盛り上げる工夫を決めて取り組んでいるため、児童の自主性・主体性を育てるためにたいへん役立っている。 ・委員会活動やクラブ活動は今年度と同じ時間を来年度も計画している。
	(21) 委員会活動やクラブ活動では、適切な時間を確保し、児童の自主的な活動が行われている。	A		
人権教育	(22) 児童や地域の実態を踏まえて、人権教育推進計画を作成して、活用している。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の研究主題とあわせた指導や、学期ごとに重点教材を設定して指導の計画を立てて取り組んだが、児童の実態が多岐にわたるために、児童の実態に沿った指導が十分できなかった。来年度、重点教材を再度見直して指導していく。
	(23) 年間指導計画に基づき、重点教材を使った指導が行われている。	A		
	(24) 暮らしの中にあるさまざまな差別について、正しい見方・考え方を育てることができている。	B		
特別支援教育	(25) 職員が特別支援教育について十分に理解している。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・特別支援学級に在籍していないが1対1対応が必要な児童が複数のクラスにまたがっているため、支援が必要な児童へのサポートが十分に行き届かなかった。
	(26) 支援員、学生ボランティア等を生かし、児童のニーズに応じて支援を行っている。	B		
保健・食育指導	(27) 児童の健康課題の解決に向けた保健指導が、計画的に行われている。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・「いきいきしずみっ子プロジェクト」では長期の休み明けに児童の生活習慣の見直しを行い、自分の生活と健康について学校と家庭が協力して考える機会を設定している。 ・養護教諭による保健指導やデジタル機器と健康についての指導を来年度も継続して行う。 ・市内の栄養教諭による食育指導を行った。来年度も引き続き行う。 ・アレルギーの研修は2年に1回行っている。今年度行ったロールプレイを交えた研修は職員の意識付けにつながった。
	(28) 年間指導計画に基づいて性教育が行われている。	B		
	(29) 年間指導計画に基づいて食育指導が行われている。	B		
	(30) 食物アレルギー等を有する児童に対して、指導体制や救急体制が整っている。	A		
読書活動	(31) 朝読の活動が十分に行われている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員や図書ボランティアの方による読み聞かせを昨年以上に実施した。
体力向上	(32) 運動の楽しさが味わえる学習が計画的に行われている。	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・体力テスト、運動会、かけ足、縄跳び等、児童の実態に合わせながら、楽しく活動できる内容を工夫して実施することができた。 ・健康委員会の企画（ボール運動やなわとび週間など）で、児童への体を動かすことの意識づけができた。
	(33) 体力づくりにつながる活動が進められている。	A		
研修・研究	(34) 研究教科の研究目標や研修計画を全教職員が共通理解している。	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は言語活動に重点をおいた授業づくりを学年やブロックで研修を重ねながら、職員全体で進めることができた。研究授業は教科を絞らず取り組んだため、研究主題へのアプローチが広く浅くなってしまった。来年度は教科を絞って取り組んでいく。
	(35) 研修の成果を積み重ね、課題を明らかにし、日頃の教育実践に生かしている。	B		
	(36) 学年でまとまって教科研修を行い、成果を上げている。	A		

評価はA・B・C・Dの4段階